

伝える力でズレない開発成功体験を

Kachitto

ホワイトペーパー

Version 0.1

01. サービス概要

02. 開発ロードマップ

「何を作るか」が曖昧なまま進むプロジェクトは
どんな優秀なエンジニアがいても成功しません。

Kachittoはその最初の一步を
誰でも迷いなく踏み出せるようにするツールです。

“伝える力で、ズレない開発成功体験を”
“終わらないを終わらせる”

— それが私たちのミッションです。

1. はじめに

Kachittoは、ソフトウェア開発における発注者と開発者の“壁”を解消するために生まれた、AI駆動の要件定義自動化ツールです。開発の失敗は技術力ではなく、「最初のズレ」によって起こります。近年、AIの進化により開発コストは着実に下がってきています。しかし一方で、「本当に作りたい価値」や「実現したい未来」は発注者、開発者の間で正しく共有できているでしょうか？システム開発の約69%は失敗と呼ばれています。私たちは、そういった所謂上流工程にこそ、最も変革が必要だと考えています。

2. サービス概要

■ 「企画書・要件定義をAIで構造化」

- ・ ヒアリング形式で入力するだけで企画書や要件定義書を自動生成
- ・ 非IT人材でも使える直感UI
- ・ 作成した資料は共有・共同編集可能
- ・ 開発前段階での資料を一元管理

■ 発注者のメリット

- ・ 言語化が難しい要望も、構造的な資料に変換
- ・ 追加工数や手戻りのリスクを事前に削減
- ・ 開発会社との合意形成がスムーズに

■ 開発会社のメリット

- ・ 初期ヒアリング工数の大幅削減
- ・ 抽象的な要望の構造化・リスク洗い出しが容易に
- ・ 仕様ブレによる炎上リスクを軽減

3. 解決する課題

■発注者の悩み

- 要望がふわっとしていて伝わらない
- 説明資料が作れず開発が進まない
- 開発会社との言葉の壁

■受注者の悩み

- 要件定義に時間がかかりすぎる
- ヒアリング工数が読めない
- プロジェクトがズレたまま走り出すリスク

4. プロダクトの価値

• コスト・リソースの削減

要件定義にかかる社内外のヒアリング・資料作成コストを大幅に削減

• 要件のズレを防ぐ

「言った・言わない」や、開発中の手戻りを予防

• プロジェクトの成功確度を上げる

要件定義がしっかりしていれば、後工程はスムーズに進む

• 誰でも使える簡易性

技術用語不要。業務知識があれば設計できる

5. 本サービスの強みや特徴

STEP. 1-1

アイデアノートの作成

プロジェクトのアイデアを整理しまとめてみましょう。

このプロジェクトで何をつくりたいですか？
作りたいもの、やりたいことの完成イメージを教えてください

例) フリーランス同士が仕事の受発注や相談を気軽にできるマッチングサービスを作りたいです。

それをつくろうと思った理由、きっかけはなんですか？
いまのやり方で困っていることや不便なことを教えてください

例) 自分自身がフリーランスで孤独を感じていて、営業や困りごとを相談できる場が少ないと感じたからです。

①とにかく簡単に

「どんなものを作りたいですか」「きっかけはなんですか」といった優しい質問から構造的な資料が作成できます。

70～80%の情報量を自動で生成するため、新たなアイデアの創出や、思いつきレベルの案の深掘りに役立てることができます。

AIサポート

改善点や見落としをチェック

現時点での入力内容を対象に改善点や見落としをチェックします。

※入力内容が勝手に失われることはありません。

どのように修正したいですか？
修正の方針や視点があれば記入してください。未入力の場合は、AIが自動で最適な修正案を考えます

戻る

サポートを開始

②AIサポート機能でより完成度の高い資料を

内容を埋めた資料の項目全体に対しAIがレビューをすることが可能です。抜け漏れの発見や表現の改善に役立てることができます。

STEP.1

準備フェーズ -- 企画書を作成しましょう

プロジェクトの内容をわかりやすく言葉にして、自身の中での整理や、社内への提案・外部への説明に使える企画書をつくりましょう

1-1. アイデアをまとめる

簡単な質問から、プロジェクトの目的や課題を言葉にします

アイデアノートを作成

1-2. 構想をまとめる

プロジェクトの仕組みを可視化します

構想イメージを作成

1-3. 実行計画をまとめる

スケジュールや予算の概算値を検討します

概算計画を作成

③明確なステップで着実に伴奏

アイデアをまとめる、構想をまとめる、計画をまとめる。

このようなステップバイステップで本格的な企画書を作成。

要求定義を作成し、開発会社が要件定義に落とし込む。

やることが明確に定まっていて、開発前段階でのドキュメントを全て本サービスで一元管理することが可能です。

開発ロードマップ

5月下旬	LP公開 - ベータユーザー募集開始
6月	ベータ版公開 クライアント企業による企画書自動生成機能を先行公開
7月	ドキュメント変更管理 開発会社とコラボレーション機能の追加(チーム) チャット機能の追加
8月	提案機能追加 開発会社が共有された資料に対して提案を送信可能に
x月	外部出力機能 権限の柔軟化 監査ログ機能